

ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」（募集型企画旅行契約）によります。この旅行は2025年11月25日現在を基準としています。

■旅行契約の解除
参加者が最低実施人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。この場合は出発の23日前迄にお知らせします。

<取消料>
お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。

<解除時期・取消料>

契約の解除期日	取消料
旅行開始日から起算して遡って20日前以降	旅行費用の20%
旅行開始日から起算して遡って7日前以降	旅行費用の30%
旅行開始日前日以降	旅行費用の40%
旅行開始後の解除、無連絡不参加	旅行費用の100%

ご旅行要項

- 旅行代金に含まれるもの
- ①企画手配料・及び手配料金
 - ②交通費：旅程に明示した航空機（エコノミークラス）
 - ③宿泊費
 - ④食事代（旅程表に記載）
 - ⑤見学費用：旅程表にした市内の見学のガイド料、入場料（自由時間は除く）
 - ⑥旅行傷害保険（死亡1,000万円、入院1日当たり6,000円、通院1日当たり4,000円）
 - ⑦航空特別保険、羽田空港施設使用料
 - ⑧添乗員同行の費用:1名
 - ⑨講師謝礼

- 旅行代金に含まれないもの
- ①旅程に記載のない行動をされる場合の宿泊、交通費、食事及び個人的に購入（お土産、飲食等）したものの。
 - ②1人部屋追加料金（15,000円/3泊）
- お部屋割り
基本は2~3名様部屋になります。お一人部屋ご希望の場合、追加料金（15,000円/3泊）が別途必要です。最終的なお部屋割りでお一人部屋をお願いする場合も同様です。

宿泊予定ホテル

◆長崎市内……ホテルニュー長崎、ビクトリアイン長崎
または同等クラスホテル

利用予定航空会社

ANA（全日本空輸）・JAL（日本航空）
スターフライヤー、スカイマーク、ソラシドエア

利用予定バス会社

友愛観光バス・西鉄観光バス

お申込方法

- ①申込書にもれなくご記入の上、富士国際旅行社あてに郵送またはfaxにてお送りください。
- ②別途送付の「国内旅行取引条件書」をご一読ください。条件確認後、申込金20,000円（旅行費用内金）又は旅行費用全額を富士国際旅行社宛に下記郵便振替口座へ振込みにてお支払いください（申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込みとなります）。

郵便振替口座番号 00140-4-39332
加入者名 株式会社 富士国際旅行社

恐れ入りますが、振込手数料は各自ご負担願います。なお、大変恐縮ではございますが、金融機関振込票のお客様控をもって領収書に代えさせていただきますので、ご了承ください。（領収書の郵送が必要な方は弊社までご連絡ください）

- ③ツアー実施が確定しましたら、弊社よりご連絡いたします。
- ④ご出発の約10日前には出発当日のご案内や日程の詳細などのご旅行資料を送付いたします。

旅行企画・実施 **観光庁長官登録旅行業84号** JATA正会員

株式会社 富士国際旅行社

TEL:045-212-2101 FAX:045-212-2201
fujikokusaionline@gmail.com 担当：山田・西須・川村・小島

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで
〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7 ヒューリックみなとみらい11F-4
総合旅行業務取扱管理者：西須 輝理

営業時間：月～金曜日/AM10:00～PM6:00
(土曜・日曜・祝日は休ませていただきます。)
ホームページ：http://www.fits-tyo.com/

株式会社 富士国際旅行社 ●別紙、取引条件説明書面に記載の旅行条件および旅行手配のために必要な範囲内での運送・宿泊機関等、その他の個人情報の提供について、同意の上、当旅行に申し込みます。

参加申込書 名護屋城・軍艦島・佐世保をめぐる 大人の学習体験旅行 in 九州 Part 2
2026年5月14日（火）発

ふりがな	性別	年齢	ふりがな	性別	年齢
氏名	男 女	歳	同行ご家族	男 女	歳
住所	(〒 ー)		電話	() ー FAX【可・不可】	
	E-mailアドレス：		携帯番号	() ー	
勤務先 あるいは 緊急 連絡先	連絡 先名 住所	(続柄：)	部屋タイプ (旅行中)	1人部屋を希望 【する・しない】 2~3人部屋、同室希望の方： ー 様	
<その他旅行会社への連絡事項>					

実施決定!追加募集中

名護屋城 大人の学習体験旅行in九州

軍艦島・佐世保

Part 2



旅行期間 2026年5月14日(木)~5月17日(日) 4日間

旅行代金 174,000円 (羽田発着の場合) ※羽田空港以外の発着・現地参加希望の方はお問い合わせください。

定員 30名様 (最低実施人員15名) **申込締切** 2026年4月17日(金)

添乗員 1名同行します ※定員になり次第締め切ります。お早めにお申し込みください。

Check Point

- 文禄・慶長の役の拠点となった名護屋城を訪れます
- 長崎の原爆遺構を見学、軍艦島クルーズも!
- 佐世保の米軍基地問題について考えます
- 田園調布学園元教員の川口重雄さんが全行程同行・解説!各地の見所やご当地グルメをご案内頂きます。

日次	都 市	交通機関	日 程 / 食 事
① 5/14 (木)	羽田空港発 福岡空港着 福岡市 唐津市 長崎市	航空機 専用車	羽田空港 集合（集合時刻：午前9時00分ごろ予定） 空路、福岡空港へ *元寇防塁跡 <名護屋城見学> *名護屋城博物館 *名護屋城址 <有田町見学> *李参平碑 *陶山神社 *泉山採石場 長崎市へ 長崎市内泊 / 朝× 昼○ 夕○
② 5/15 (金)	ホテル発 長崎市	専用車	<長崎市内見学> *軍艦島クルーズ *長崎人権平和資料館 *日本二十六聖人記念館 ★被爆者の方の講話 長崎市内泊 / 朝○ 昼○ 夕○
③ 5/16 (土)	長崎市	専用車	<長崎原爆遺構フィールドワーク> *平和公園 *長崎原爆資料館 *山里小学校 *一本足鳥居 *永井隆記念館・如己堂 *浦上天主堂 長崎市内泊 / 朝○ 昼○ 夕○
④ 5/17 (日)	ホテル発 佐世保市 長崎空港発 羽田空港着	専用車 航空機	ホテル発、佐世保市へ <佐世保市内見学> *佐世保基地 *佐世保港 長崎空港へ移動 空路、東京・羽田空港へ （到着時刻：17時00分ごろ予定） 朝○ 昼○ 夕×

※現地事情で見学日時・順序が入れ替わる可能性がございます。予めご了承ください

長崎 味の魅力



長崎と言えば、卓袱料理（しっぽくりょうり）が有名です。中国料理や西欧料理が日本化した宴会料理の一種で、長崎市を発祥の地とし、大皿に盛られたコース料理を、円卓を囲んで味わう形式をもつ。和・中・洋の要素が混じり、テーブル卓に料理を乗せて味わうのが特色です。他に長崎で是非食べていただきたい料理は、長崎ちゃんぽん、カステラ、皿うどん、からすみ、角煮まん、大村寿司など。また最近では、トルコライス、ミルクケーキ、茂木びわ、佐世保バーガーも人気メニューです。

長崎原爆遺構フィールドワーク

浦上天主堂

長崎は長崎湾に向かっていくつもの谷が走る地形を持つ都市です。浦上地区は当時の国鉄長崎本線が通る長崎の中心的な谷でした。浦上天主堂はその浦上地区のクリスチャンの拠点として大正年間に献堂され、大浦天主堂と並び長崎の布教・宗教活動の中心でした。原爆投下時には聖母被昇天を控えた告戒の為に300人ほどの信徒がいましたが全員が犠牲となりました。敷地内には爆風で転落した大鐘楼のドームが残ります。



山里小学校

爆心地の北側700mにある小学校です。原爆投下時は教職員28名看護動員の女学生、海軍の事務部門などが在校し犠牲となりました。校区の大半が爆心地に位置するため在校生1581人中およそ1300人が犠牲になりました。敷地内に保存されている防空壕は数少ない生存者が助かった場所です。



永井隆記念館

永井隆博士（1908～1951）

島根県松江出身。長崎医科大学で学び放射線科の医師となりました。1945年8月9日長崎医科大学で被爆。自身が放射線と原子物理学の専門家であったためいち早く原子爆弾の被害を察知し、こめかみを切る重傷を負いながら救護活動に従事しました。平和と核兵器の廃絶を世界に訴え続けながら白血病により死去。息女かやのさんは山里小学校の在校生でした。



博士最後の住居・如己堂

軍艦島クルーズ

軍艦島は長崎の沖合に浮かぶ無人島で、明治の中頃から良質の石炭を産出することから採掘がはじまり人が住むようになりました。狭い面積に炭鉱産業に必要な人員を詰め込むために帝国憲法時代には珍しい鉄筋コンクリートの高層建築が立ち並び、最盛期には人口がおよそ5000人を超える日本で最も人口密度の高い都市空間でした。その姿が沖合から見ると軍艦のように見えることから「軍艦島」と呼ばれるようになります。富国強兵政策をとる日本の方針で過酷な採掘事業が続く間は多くの犠牲者を出していました。その中には朝鮮半島から連れ込まれ、人間性を無視した労働を強いられた人々も含まれます。中には配置換えで本土に移って後で原爆投下にあった人もいます。2015年には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の1つとして、世界文化遺産に登録されました。



名護屋城博物館

名護屋城は豊臣秀吉が朝鮮に攻め込んだ文禄・慶長の役（朝鮮側では干支から壬申丁酉の倭乱といいます）の基地として九州北部に築られました。旧城内にある博物館は出土品だけでなく朝鮮の役を含めた歴史の流れ全体が解りやすく展示されています。



佐世保港・佐世保基地

佐世保港は、1889年に旧日本海軍が鎮守府を設置して以来、軍港として発展してきました。戦後は米軍に接收され、現在は米海軍佐世保基地と海上自衛隊佐世保基地が置かれています。

佐世保湾の水域の約83%は米軍の使用を優先する制限水域となっており、自衛隊と共同使用されています。制限水域は細分化されており、民間が制限なく使用できる水域は約17%のみです。また、日米地位協定により、米軍は自衛隊の倉庫施設や射撃訓練場、民間の船舶修理施設などを利用（共同使用）しています。

1968年、米国原子力空母「エンタープライズ」が佐世保港に入港して以来、これまで通算16回にわたり原子力空母が寄港しています。

